



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (3632) 0156

青葉薫る上野に、春の歓びを

郷里の人と、友達と —— 総会ご案内 ——

期日 平成5年6月27日(日) 午後一時 会場 東京新潟県人会館

ご健祥にお過ごしのことと、お喜び申しあげます。片貝会は本年度、34年を迎えることができました。...

記

- 一、日時 平成5年6月27日(日) 午後一時(正午より受付)
一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)
(銀座線)、JR「御徒町」七分

母校を励ます会 浅田雄司氏

浅田さんは、稲場の出身で昭和28年卒、辰己会。新潟大学の理学部を卒業されて、更に米国のスタンフォード大学にも留学された。

究のために渡米されており、目黒にある科学技術庁の金属研究所で活躍中です。...

会の動き

- 新年会 1月31日
二面参照
青樹荘花見の旅 4月10~11日
三面参照
第34回総会(予定) 6月27日

人の動き

高橋四郎氏逝く 2月11日
高橋さんは会計監査を長年勤め、会ではいつも受付役を買ってくれていた。...

再び佐藤家跡地のこと

二月七日の小千谷新聞の社説は、左のように述べていた。現当主(佐藤忍氏)から、出来るなら、公共用地として利用していただければ...

余りある。小・中の校長先生異動
春の異動で、中学の瀬沼先生は定年退職となり、小学校の渋谷先生は、長岡市上川西校へ栄転された。

異動(転居・表示変更・電話)5年2月28日現在

Table with 3 columns: Name, Address, Phone Number. Includes members like 安達トヨイセ, 新井洋子, etc.

昭和三 高橋四郎 (5・2・11) 昭和18 花沢ヨミ 昭和37 本田由紀子 (4年6月)

初春の楽しさいっぱい

# 正月のつどい

平成五年一月三十一日・東京新潟県人会館



ます。編集は大変でしょうが後を受け継ぐ方が見当らず、苦慮している。この打開こそ今年の課題と想っています。どうか時間の許す限り、交歓して、有意義に過ごして下さい、と。

内容が豊富になった。皆さんの顔も、一段と明るくほころんできた。このほか、例会毎に写真を撮って下さっている山岸慶昭さんから、作品を数多く提供された。皆々様のご好意には感謝のほかはない。ファイナルは、木遣りの大合唱、一同歓びを尽し、相崎勇次さんの締めくくりの挨拶で、四時に閉会となった。五時からの予約があったため、やや名残り惜しい感もあったが、一同、今日の一日を満足して、家路に着いた。

- 大正
  - 佐藤正雄 安達宗吾 安達徳太郎
  - 神林マス 佐藤量八 山口富次
- 昭和2、10
  - 相崎勇次 小川茂雄 日下部政子
  - 山口ヨシ 芝 五郎 早川松太郎
  - 丸山 春 芋川とし 相崎善次郎
  - 山口三郎 浅田鉄二 大内登世
  - 朝妻ヨシ 黒崎孝造 小富竹次
  - 本田松次 田口タズ 勝又 功
  - 吉原彦作 芝三四司 佐藤彦一
  - 堀井豊作 武藤睦子
- 昭和11、20
  - 黒崎音吉 安達保治 太刀川善蔵
  - 浅田鉄夫 小宮秀夫 山田松次郎
  - 大矢常吉 佐藤広次 岩片智恵子
  - 丸山恵次 青木富代 小宮八重
  - 丹治きみ 佐藤敏雄 佐藤道雄
  - 山田利雄 山田チエ
- 昭和21、30
  - 神林勝夫 安達和三 阿部修次
  - 山岸慶昭 相崎達一 吉原三代治
  - 大塚順一 黒崎 正 石川春子
  - 小野塚茂 佐藤祐一
- 昭和32
  - 諸我時夫 (敬称略)

一月末ともなれば、さすがに寒さもゆるみ、日中は暖かさも増してくる。新年会は、定刻一時に開会された、黒崎正さんの司会で。勝又会長が年頭のあいさつを。

皇太子に、お妃が内定、しかも新湯に深い縁があると承れば、喜びもひとしおです。お元氣な皆様に接して、嬉しい限りです、今年も元氣で頑張りましょう。会報は会の生命と想っています。

例年の春の青巒旅行を、四月十日、十一日に実施したい旨の提案があった。互いに会えば話はずみ、心がうちとけ合う。思い出話に花が咲き、最近の故郷のできごと、友達の動静などなど、尽きることがない。会場が一層盛り上がったところで、恒例の福引きが始まった。心温かい会員諸子からのお年玉も加わり、浄照寺からは手拭をたくさん寄贈されて、



当日、福引をご提供いただいた方は左の24氏。(敬称略) 佐藤正雄、安達宗吾、芝五郎、佐藤量八、相崎勇次、丸山春、小川茂雄、山口ヨシ、日下部政子、芋川とし、藤田睦子、朝妻ヨシ、黒崎孝造、小富竹次、田口タズ、芝三四司、佐藤彦一、黒崎音吉、丹治きみ、諸我時夫、山田チエ、小野塚茂、佐藤祐一、松下利夫

お祝をいただいた方。安達宗吾、黒崎孝造、黒崎勇荒木ムツ、勝又 功。ご芳志に対し、深くお礼申しあげます。当日の出席者(58名)

## 母校

### 活き活き 活躍ぶり

◇小学校  
もみの木祭 12月5日  
学校の入り口に聳えるもみの木のように、すくすく伸びよ、との願いのもとに、児童会が中心になって、運営するお楽しみ会である。

◇中学校  
バレー県代表に 12月28日  
県大会で三位になったが、大阪で開催される全国大会に女子選手が2名選ばれた。12名の中、母校の田中先生は、男女の総合監督もされた。

学年毎に趣向をこらしたゲームや体力測定、クイズなど多彩の行事を楽んだ。当日町に滞在中だったカナダ人のヤングさんと、その婚約者であるシュワルツさんの二人が招待された。

バスケットで準優勝  
この八月には完成の予定  
1月31日・2月7・11日  
出場44チームが、長岡南部体育館などを会場として開催された。中越地区の試合。

母校は、かねて文部省の「体力づくり推進校」として指定されており、頼もしい限りである。

その結果、片貝中は小千谷中に優勝を許して惜敗した。ジュニア大使に吉原祐介君  
全国から選ばれた36人の一人として、オランダへ一週間親善大使として派遣された。

この時間には、いろいろのスポーツが中心になる。中でも一輪車は人気ナンバーワン

得意なバスケットなどのスポーツを通して、交流を深めてきた、ということである。

# 青巒荘、花の旅

—また来年も参加したい

4月10・11日

箱根の大観山から吹いてくるそよ風が、桜の花の香りを誘い、野天風呂に流れ落ちる高さ三十米の滝の下で、のんびりと群れなす鯉を見ながら手足を伸ばし、旅のひと時は深まってゆきました。調べてみると、片貝会の湯河原の旅は、今年で十九回目になるようです。

そんな先輩達の足跡をたどって、二回目の参加でした。

土曜日の一泊にもかかわらず、格安料金で、しかも食べきれない程の料理と、青巒荘さんから寄贈されたビールも



飲み放題。歌に話に、会は大変盛り上がりました。考えてみますと、三十年も前から、先輩の方々が、この同じ場所、いろいろと語り明かして来られたと思うと片貝会の歴史を偲ぶことが、できたような気がしました。翌日は、恒例の花見台で、満開の桜を見たり、近くで、お茶をいただいた仲間もいたりして、お昼過ぎ、湯河原駅で解散しました。天候にも恵まれて、楽しい旅でした。来年も又、都合できたら、ぜひ参加したいと思っています。幹事の小野塚さん、太刀川さん、ご苦勞様でした。また青巒荘にも謝々

昭21年 阿部周次記

来年は20回となりますので盛りあげて、楽しくやりたいと思っています。小野塚茂

参加者は十五名(順不同) 勝又功 佐藤彦一 阿部修次



高野賢 新野次朗 安達和三  
黒崎正 相崎達一 小野塚茂  
黒崎勝 太刀川善蔵  
小宮きよ 青木富代  
丹治きみ 小林愛子

## 愛校心に支えられ 十二年目を迎える 母校を励ます会・報告

### 母校を励ます会・報告

発足当時は、これほど長い期間、継続できるとは思っていなかったのです。それが下段の会計報告に示すような結果を生むまでになってきました。着実に、しかも粘り強く、ふり返ってみて、ただ感激あるのみです。秋の講師も決まり、ホットしています。今回(一月〜五月)ご支援をいただいた方(24名)

- 大阪 大矢三郎
- 大正 佐藤正雄 佐藤量八
- 昭和2〜10 小川茂雄 芝 五郎 石上健次
- 山口三郎 大矢幸治 堀井豊作
- 三井ミヨ
- 昭和11〜20 黒崎音吉 安達トヨ 岩片千恵子
- 松下利夫 鈴木すよ
- 昭和21〜30 阿部修次 黒崎 正 友田勝良
- 佐藤祐一 藤塚文頭 荒木ムツ
- 松本キイ 嶋川久江
- 昭和32 諸我時夫

会員短信(敬称略) 石黒ミス(大15) 会報をいつも楽しく読んでいます。 本田政秀(昭2) 一月は入院中(もう退院か) 黒崎敬五郎(昭6) 瑞雲会の総会と、いつも重なるので、新年会に出席できません。悪しからず。 大矢幸治(昭7) 風邪をひき、漸く快方に向ってきましたが、残念ながら欠席いたします。 山口武一郎(昭9)

相も変わらず、腰の痛みが取れず、隔日病院通いをしていきます。 広川久美子(昭12) 片貝の実家のことで、大変な心遣いをいただき、厚くお礼申しあげます。 どうぞよろしくご指導のほどをお願い致します。 中野みちよ(昭16) 私達の同級会は、二月の第一日曜日に、新年会を開くことになっていきますので。 新野次朗(昭21) いつも片貝会にお誘いいただき、ありがとうございます

忍足良子(昭22) 会報を楽しく読ませていただきました。 佐藤孝二(昭22) 仙台で二年目の初春を迎えました。皆様の御健勝を祈念いたします。 吉原栄一(昭22) 会報により、故郷の発展ぶりが理解され、毎号楽しみにしています。 本田善一(昭26) できる限り出席させていただき、懐かしい皆さんと旧交を暖めたいと思っています。 平沢和子(昭32) いつもご連絡を、ありがとうございます。

母校を励ます会・会計報告

会報46号以後の収支(平成5・1・1〜5・5・31)

収 入	¥90,393	支 出	¥2,050
基金	79,000	はがき	2,050
利息	11,393		
通算会計(昭和58・5・1〜平成5・5・31)			
収 入	¥3,234,633	支 出	2,381,828
基金(延912名)	2,996,200	寄贈図書(10回)	2,200,000
利息	238,433	講演会(11回)	
現在高	852,805	印刷郵券等	71,828

浄照寺のご住職小林文雄氏は、住職になられて五十年になった。しかも米寿を迎えられたので、市長を始め、関係者多数集って、本堂で祝賀会が催された。会から、勝又、佐藤、安達(宗)三氏も出席した。(五月二十三日) 浅田壯太郎先生の十三回忌は来年四月。関係者が、先生を忍ぶ会を企画している。

# ふるさと・は・今

4年12月から  
5年4月まで

## 今年の初詣で

人出は昨年より若干多く、約三千人あった。  
除夜の鐘の代わりに、花火を百八発打ち揚げた。十二時にスターマインで締めくくり平成五年の幸を祈念した。

## 小栗田の里の現況

市の老人の人口比は、二十市の中の五位というから、高い方であろう。

## 積雪と賽の神

一月七日は0cmであったが二月二十六日には25cm。昨年は77cmもあったから、大変

現収容規模は八十床なのに在宅の寝たきり老人は、二百名以上ある。この内の二割の人が、入居を希望している。特にショートステイの要望が多く、今後の重要施策になっている。

ぎよい冬だった。片貝中の校庭で調査したもの。賽の神は前日に雪が降ったので、ほっとした。県下随一を自認しているだけあって、人手も千人を超えた。

参道に百八丁のろうそくが奉納され、四十二歳のこれ会の餅まき、成人を迎えた輝友会による仕掛花火、スターマインの打ち揚げで賑わった。

## 東京片貝会・会計報告

(自平成4・4・1至平成5・3・31)

収入総額	1,828,670	支出総額	1,828,670
前年度繰越	287,670	総会費	361,452
年会費	410,000	(会館払い)	316,272
総会々費59人	295,000	(お車代)	30,000
新年会々費58人	290,000	(おみやげ代)	15,180
祝儀寄付	146,000	新年会費	326,885
別途積立	400,000	(会館払)	303,840
		(福引補助)	23,045
		印刷費	25,000
		会議費	11,385
		通信費	112,834
上記の通り報告致します		会報費(45.46)	
平成5・3・31			175,156
会計部長 黒崎孝造		交際(旅費)	20,000
上記は適正且つ正確であることを認めます		慶弔費	10,000
会計監査 小川茂雄		振替手数料	15,460
大矢幸治		次年度繰越	370,498
		別途積立	400,000

最後に十米以上の賽の神に点火されて、天を焦がさんばかりだった。

ユニークの企画で、人気を集めている「ほのほの広場」では、稲荷神社を出現させてお参りをしてもらった。この賽銭は市の福祉基金として寄付された。二万七千円。

## リサイクル運動

昨年の秋に、主婦30名がボランティア活動として発足した。

片貝支所が取扱い場になっている。

アルミ缶、スチール缶、発泡スチロールトレイ、衣料など。毎月第一日曜日に取扱いすぐに利用できる物は、東南アジアへ輸出、再生できる物は毛糸にしたり、断熱材や資源として処理している。

不要品はガレージセールもして、好評という。

月一回の会報も発行している。町民に大きな反響を呼びおこしている。

## 雪原まつりの熱気球

熱気球は全国から32基参加した。出発は西中学の校庭から、小栗田原を過ぎす。

三月十二日から十四日までの三日間開催された。十二日と十三日は天候に恵まれず、

全部が飛昇できなかったが、十四日は好天で、午前七時から一斉に離陸を開始した。市内をゆっくりと北上して市民の目を楽しませてくれた今回で17回。

## 花火で心意氣を

去る三月二十一日に、秋田の大曲市で、全国の若手花火師の大会があった。

片貝の煙火工業専務の本田正憲さん(四五)が

「世界一、四尺玉の打揚がる里片貝―花火に託した片貝人の心意氣」と題して講演した。

この前夜、「全国若手花火師、夜空の競演」があり全国から三十名が参加して、新作花火が揚げられた。

翌日は百二十名の関係者のフォーラムがあった。この時本田さんが講演した。

## 片貝の花火を放映

4月19日日本テレビの「ズームイン朝」の番組が、十五周年を迎えるにあたり、新潟テレビが推薦して、放映された。

全国二十六局を結んで。

## 片貝まつりを見直そう

最近県外からの観光客も増え、マンモス化してきている。喜ばしいことには違いないが、反面問題点も浮上してきている。皆さんも既にお気づきのことと思います。

いろいろ改善すべき点があっても、これを取り上げてくれる受け皿がなかった。

来客者が多くて、ゆっくり花火を見るゆとりもない。何日も勤めを休み、支障がおきる。

道路の渋滞、棧敷席の混雑事故が起きてからでは遅い。現在社務は六区に分れているが、その社務長で委員会を作り、五区の丸山良平氏が社長となって、検討委員会を発足させた。委員長は新野桂一郎氏。

## あとがき

僅か四頁の会報ですが、写真をお願いしたり、資料を集めたり、まとめるのに、たっぷり一ヵ月かかる。これも老年になって、馬力が衰えたためと思う。けれども、出来上がった時の満足感もあります。

何とか新味を出したいが、思うに任せないのが歯がゆいばかり。皆さんの寄稿をお願いいたします。新鮮な血を注がないと、魅力が薄れてくるばかり。ぜひお寄せ下さい。